

日本ロレンス協会ニューズレター No. 37

2019年8月16日

日本ロレンス協会会長 田部井 世志子
副会長 石原 浩澄

会員の皆さまにおかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。さて、今年度の日本ロレンス協会 50 周年記念大会は、6 月 8 日（土）、9 日（日）に慶應義塾大学日吉キャンパスで開催され、成功裏に終了しました。記念大会ということもあり、特別企画を 3 つ盛り込み、また研究発表者も 4 名からの応募があり、例年以上に盛りだくさんな大会となりました。

まず 8 日は、大江公樹氏と田島健太郎氏の研究発表から幕開けしました。大江氏の発表のタイトルは「ロレンスのキリスト教観に対する母の影響——*Sons and Lovers* を中心に」、続く田島氏のタイトルは「*The Fox* における狐の象徴性」でした。1 日目のビッグイベント 50 周年特別企画 1 は基調講演で、「ロレンスとモダニズム」というタイトルのもと、Michael Bell 氏（“Lawrence and the Aesthetics of Modernism”）と Sean Matthews 氏（“T. S. Eliot and D. H. Lawrence: ‘Towards the Door We Never Opened’”）による講演がなされました。

2 日目の 9 日は杉野久和氏による研究発表（「*Lady Chatterley’s Lover* と反知性——『上』を志向するコニー」）から始まり、引き続き「動的プロセスとしての歓待——D. H. ロレンスにおける『風』のモチーフの再考を通して」と題した井出達郎氏による発表がなされました。

更には、50 周年特別企画 2 として井上義夫氏による特別講演（「D. H. Lawrence の伝記資料とその収集」）がなされ、そして最後のビッグイベント、50 周年特別企画 3 としてのシンポジウム（「21 世紀の文明社会のゆくえ——D・H・ロレンスとノルベルト・エリアス」）では、まず大平章氏による導入からスタートし、次に Julian Manning 氏による発表（“Norbert Elias and Social Identity: Conceiving the Individual, Culture and Society”）、そして最後に「文明化と存在論——ロレンスの文明論に関する一考察」と題する鳥飼真人氏による発表という流れで話が進みました。

研究発表はいずれも質が高く、緻密なテキストの読みを基盤に据えた力のこもった発表が繰り広げられ、またユニークな 3 つの特別企画は、いずれも刺激的な発表や講演で、ロレンスを中心に視野が更に広がり、日本に居ながらにして、他ではまず得られない貴重な情報や資料が得られたことも大きな収穫でした。近年、イギリスではロレンスのリヴァイヴァルが盛んになってきているという Bell 氏の報告は、ロレンス協会の一員としてとても

嬉しく、日本でも今後ますますロレンスを研究していくことの意義を発信していく必要性を感じさせられました。フロアーからの質疑応答や議論も活発で、盛大な大会になったことをご報告いたします。大会の様子等については協会ホームページ（以下 HP）の「全国大会」→「50 回レポート」をご覧ください。また、大会の詳しい内容については、次号の会誌『D. H. ロレンス研究』第 30 号の「日本ロレンス協会 50 周年記念大会報告」をご参照ください。

この 2 日間の大会のために、会場設営と大会運営にご尽力いただいた武藤浩史氏、近藤康裕氏、ならびに慶應義塾大学の学生スタッフの皆さまをはじめとする関係者の方々に、心よりお礼申し上げます。

次に、総会での審議および決定事項をご報告いたします。

1. 編集委員の数について

会則第 20 条の編集委員会の構成は、現在、「編集委員長、編集委員 4 名、及び編集事務」の計 6 名です。会員数の減少もあり、また他の学会等では人数が少ないところもあるため、編集委員の 1 名減を提案しました。様々な議論が交わされましたが、とりあえず会則は現状のままとし、今年度は 1 名欠員のままで実験的に編集委員会を運営してもらい、問題がないかどうかを見極め、その結果を踏まえてその後の方向性を決めることになりました。

2. 会則第 22 条の訂正について

ニューズレターの発行に関する第 22 条を以下のように訂正しました。

(旧) 本会事務局は会員の情報交換の場としてニューズレターを発行する。事務局からの通知、会員名簿、及び各種情報をニューズレターで知らせる。

(新) 本会事務局は会員への情報提供のためにニューズレターを発行する。

3-1. HP に会誌をアップロードする時期について（『D.H.ロレンス研究』の原稿募集要項「申し合わせ事項」の公開条件について）

「申し合わせ事項」4 (2) に、執筆者による会誌掲載論文のインターネット上での公開については、「『D. H. ロレンス研究』当該号刊行後、12 か月が経過していることとする。」とあるが、会誌については完成・出版後、なるべく早く協会の HP にアップロードすることになりました。

3-2. HP にアップロードする会誌の部分について

会計報告以外は原則すべて載せることになりました。

4. 評議員の地区変更および定数について

現在、北海道・東北地区の評議員が欠員 1 名の状況です。また今回、浅井前会長の顧問

就任に伴い近畿地区に1名、評議員の退会により九州地区に1名、新たに欠員がでています。地域によっては会員数が少ない等の理由により、従来の定員では評議員を出すのが困難な地区も出てきており、まず、地区の数の見直しを提案しました。従来の中部地区と近畿地区の合体、中・四国地区と九州地区の合体により、これまで6つあった地区を4つにすることになりました。また定員数については規則が特になくことから、とりあえずは「1名欠員」の表記をとり、現在の人数で運営することになりました。今後、必要に応じて欠員補充をしていきます。

5. 新執行部委員等の選出について

今年度は大きな異動がありました。会誌にも掲載しますが、HPの「協会役員等」のページをご覧ください。

6. 第51回大会について（開催校、日程、企画について）

鳥飼真人氏のご尽力により、第51回大会（2020年）は高知県立大学永国寺キャンパスにおいて6月20日（土）、6月21日（日）に開催することになりました。企画などは未定です。皆さま、発表はもちろん、シンポジウム、ワークショップ等々の企画に奮ってご応募ください。

7. 決算報告、予算案（2018年度会計決算報告と2019年度予算案）

会計の鳥飼氏からそれぞれ報告と提案があり石原浩澄氏と星久美子氏から会計監査報告がなされ、承認されました。

今年度の大会費については慶應義塾大学から援助をいただきました。ありがとうございました。また、倉持三郎氏から寄付金をいただきましたこともご報告させていただきます。学会補助など、協会のために利用させていただきます。ありがとうございました。

その他、報告、話題提供等

1. 浅井前会長の顧問就任について

会長職の任期終了に伴い、浅井雅志氏が顧問に就任することになりました。

2. D. H. Lawrence Digital Archive of Japan のHPへの立ち上げについて

協会HPにDigital Archiveを立ち上げることにより、会員から寄せられる「ロレンス研究文献」の中身を閲覧することができるようにしてはどうかというご意見が寄せられています。以下のメリットが考えられます。

- ・研究のために便利であると同時に、海外からのアクセスも可能になる（国際大会で発表するのと同じ値打ちを持つ）。

- ・会員から送られてくる紙媒体の論文、著書を編集事務等が保管したり、編集事務の交代に伴い郵送したりする手間が必要なくなり、負担軽減になる。
- ・保管論文などの利用が実際にはほぼ不可能であるのに対して、HP から容易に閲覧できる。

実現に向けての課題や問題点、HP にアップロードするまでのプロセス等々について様々な議論が交わされました。今後、時間をかけて煮詰めていければと思います。もしこの件でご意見などありましたら、事務局までお寄せください。

3. 国際学会について

来年度は以下の学会が開催されます。皆さま、奮ってご参加ください。

* 34th INTERNATIONAL D. H. LAWRENCE CONFERENCE (March 26-28, 2020), Paris, Université Paris Nanterre: “D. H. Lawrence and the People”

* 15th International D.H. Lawrence Conference (July 12-17, 2020), Taos, New Mexico: “Lawrence’s 1920s: North America and the ‘Spirit of Place’”

Call for Papers の情報も出ています。詳しくは以下の D. H. Lawrence Society of North America の HP のサイトをご覧ください。 <http://dhlsna.bravesites.com/>

4. 和田静雄海外研究発表助成制度の奨学金について

あと 2 名分の予算が残っています。詳しくは協会 HP の「協会会則・制度・役員等」のページでご確認ください。

5. 会員数について

現在、会員数はちょうど 100 名です。

以上、ご報告いたします。

50 周年記念大会も有意義に幕を閉じ、これからまた新たに次の節目を目指して一步一步、歩んで行ければと思います。これからも皆さまと共にロレンス文学の素晴らしさを社会に発信していくことができればと思います。

協会に対するご意見をはじめ、どのようなことでも結構ですので、何かございましたら、事務局までお寄せいただければと思います。

それでは皆さま、来年 6 月に高知県立大学でお会いしましょう。